

OPINION 当事者の意識変革と努力無しでは険しい解決への道

過ぎ去りし若き時代の添乗経験の思い出

初添乗は入社した年の夏。ハワイ。お客様100名に添乗員2名、私はサブ添。チーフはガイドライセンスを持っていたベテランのS女史で、知識も行動も神様のように頼り甲斐があった。お陰で、何の問題もなく終了というときに、帰便のシートアサインがバラバラ。ご家族や新婚さんが一緒に座れず大騒ぎ。声がデカイ私の出番。何とか收拾して事なきを得た。

2回目の米西添乗では、初日にお客様が脳溢血で倒れ、アメリカの救急車に初乗り。

3回目のカナディアンロッキーは航空スで到着日がズレ、大人気のホテルを現地を取り直し。四苦八苦。ついでにこの時は、日本語マニュアルを棒読みで案内したロッキーの山名が全部2つずつズレていた。

以来、数10回の添乗で、3回に1回は何か起きた。交通事故、台風、スト、盗難、お客様の迷子に失踪、手配ミスに自分のミス、等々。内容も頻度も平均的らしい。でも若い時は体力もあり、内勤の合間の添乗はエキサイティングで楽しかった。

しかし専業添乗員の方たちは、このハードな仕事を毎年200日のペースで続けている。頭が下がる。今はお客様も旅慣れ、不安と依頼心がゆえに添乗員に一目置くようなことは殆ど無い。その分、自我を抑制しない。だから現在の添乗は、昔よりずっと真剣勝負で難しくなっている。また、商品競争が激化の途を上りつめていくに従い、添乗中のサービスも随分エスカレートした。仕事量も増えている。

添乗業務の妥当な価値対価を お客様から頂戴する環境づくりを

TCSAの理事となって2年余。しばしば考える。質量とも重くなつた添乗という仕事に、我々はどう報いているのだろうか。

添乗は営業や内勤業務に較べ、楽な仕事ではない。そして旅行業に不可欠である。皆、いずれも否定しない。それにしても対価の改善は遅れてきた。

添乗代は旅行原価。価格競争に直結するので、値上げには皆シビアだったからということもある。しかし我々は、燃油サーチャージを言われるままにお客様から集め、地上費インフレや為替高騰分は商品価格にきちんと反映する。

となると、コストの問題もまずは、その価値と必然性に対する我々の認識次第だ。ともあれ添乗業務とその対価に関しては、旅行会社も派遣会社も、互いに間合いを測つたまま長年を過ごしてきた。

かたわら、ここ数年、家庭を築く歳になっても十分な報酬を得られず、辞めていく添乗員さんが多くなった。若い人の応募もめっきり減った。我々の業界は、溢れる陽射しで全てを照らせるほど豊かではない。だからなおさら、問題の偏在には注意が必要だ。

価格競争に不利なコストアップは、誰も突出して受け入れることを好まない。しかしひずみを内包したままでは、一時的に企業の業績や価値を上げることができても、産業と職業の価値は高まらない。となれば人材確保もままならず、企業も早晚行き詰る。

いずれにしても、添乗業務の妥当な価値対価をお客様から頂戴し、互いの事業に不可欠なリソースを守り育てていく当事者は、我々旅行業と添乗業の他にはいない。

今、行政と業界を絡めた動きもある。

使用者、派遣元、派遣先、皆が自主的に、そして同じ方向に一歩を踏み出す、数十年ぶりの機会だ。



(株)JTBワールドパッケージングズ
代表取締役社長

TCSA理事

伊藤 正人氏

CONTENTS

OPINION ————— 1 当事者の意識変革と努力無しでは険しい解決への道 (株)JTBワールドパッケージングズ代表取締役社長 TCSA理事 伊藤 正人氏	特集 ————— 2 平成19年度事業運営計画の基本項目 寄稿「添乗を専門職とする人達の処遇改善を!!」 新たな公費受託採用制度がスタート、 新戦力として期待 2000日添乗員のコソコソ奮闘記 ㊸	TOP INTERVIEW ————— 4 (社)日本旅行業協会 会長 新町 光示氏をお訪ねして TCSAだより ————— 8 「TCSA添乗員相談室」フリーダイヤルの活用を!! 平成19年度派遣元責任者講習会 会員動向 編集後記
TCSA REPORT ————— 6-7 2006年 特に活躍されたツアーコンダクターに栄光を!! TCSA添乗員表彰規定「特別永年勤続功労表彰」新設、 本年度5名のベテランの方々が受賞!!		

特集!

平成19年度事業運営計画の基本項目

3月22日、正会員53社(委任状出席21社を含む)が出席し、第21回通常総会が国土交通省花角観光事業課長を来賓に迎え開催されました。冒頭に山田会長から今年度の主要事項として“添乗労働時間管理とそれに伴う処遇改善問題”“ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤーの定着”“TCSA旅程管理研修への参加”の3点について会員会社の協力依頼がなされました。本年度はTCSA役員の改選期にあたり、新役員の選出後理事会を開催し、山田会長、三橋専務理事が再任されました。



I 添乗業務に係わる事業

- 1) 添乗労働時間管理の捉え方を厚生労働省の指針を得た上で関係先との統一的な考え方の策定
- 2) 添乗員に関する環境の改善に向けての施策
- 3) 厚労省受託「雇用高度化事業」の推進
- 4) 「ツアーコンダクター職業フェア」の開催
- 5) 地域の要望に沿った旅程管理研修の開催
- 6) 委託訓練制度実施、シルバー人材センター出張講座開催等による応募者増加策の推進
- 7) 派遣添乗員就業規則モデル作成の検討、実態調査

II 添乗を専門職とする人達のための事業

- 1) 「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2007」表彰制度の実施
- 2) 各地域における自主的研修・セミナー、添乗員の日の開催等に対する講師派遣、経費の援助
- 3) 添乗員能力資格認定、デスティネーションスペシャリスト、世界遺産検定講座へのチャレンジ推進
- 4) 添乗員相談室、添乗実態調査自由記載事項への対応

III 業界発展に資する事業

- 1) 「JATA・TCSA定例協議会」、「添乗員労働問題研究会」、「JATA添乗員問題検討部会」等による添乗員処遇改善策の推進
- 2) 国土交通省所管部門、厚生労働省労働行政担当との緊密な連携及び支援依頼
- 3) 協会及び業界としてあらゆる場面を利用した効果的なPR
- 4) 「派遣元責任者講習会」制度改定への対応
- 5) TCSA地区協議会との連携強化及び中部地区協議会発足への働きかけ
- 6) 保険業法改正施行に向けての「TCSA共済会」の運営課題、法的整備の研究
- 7) TCSAホームページの見直し

第21回通常総会懇親会における山田会長及びご来賓



山田TCSA会長



柴田国土省総合観光政策審議官



藤野国土交通大臣政務官・参議院議員



坂本参議院議員



新町JATA会長



添乗を専門職とする人達の処遇改善を!!

社団法人 日本添乗サービス協会
専務理事

三橋 滋子

4月13日の朝日新聞に「へとへとツアコン蜂起」の見出しでツアーコンダクターの労働実態が報じられ、これを読んだ吉永みち子さんがスポーツ紙に「ハケンから品格を奪う社会」と題したエッセイを書いている。こうした添乗実態を改善するために施策を講じてきた協会の現状をお伝えしたい。

殆どの添乗業務は、管理者の眼の届かないところで単独で行われるため、労働基準法第38条2第1項に定める「事業場外のみなし労働時間」の適用が長年旅行業界の慣行とされてきた。

ところが、通信機器の進歩した昨今、事業場外労働といえども時間管理ができる業務であると指導する労基署があり、全国組織の当協会会員会社が本社と支社で異なった判断をされるケースも出てくることになりかねない。

そこで協会では、添乗労働を労基法に照らし合せ、どうとらえたら良いかを使用者である旅行会社団体日本旅行業協会とサービス・ツーリズム産業労働組合連合会の三者で構成した「添乗員労働問題研究会」で審議の上、草案をまとめ労働基準行政の元締めである本省の判断を求めることとした。

当研究会での審議過程でも、一日の添乗労働時間を何時間とみなすかが焦点となった。通常給与の上に添乗手当を社員に支給する旅行会社は、所定労働時間内の労働であると主張するが、添乗実態を知るメンバーは早朝出発夜間帰着の日帰り添乗を所定労働時間とみなすには無理があると主張した。拘束時間即労働時間であるとする派遣事業者側と実際の業務毎の所要時間を積算すると、所定労働時間内に納まると考える旅行会社側の考え方の統一見解がみられないまま現在に至っている。三者のヒアリングを経て労働基準局監督課は旅行形態別の添乗労働実態を報告するように業界に求めている。

業界内格差是正のためにも、この機会に使用者側旅行会社も現場第一線で働いている人達がどのような職務を担っているのかを正しく把握し、現実から眼をそらすことなく旅行の種類別に添乗労働実態をきちんと検証し、合理性有る判断をして欲しい。前述の草案をまとめるに当たり、併せて業務の改善、待遇の改善、環境の改善など処遇全般の改善を求める要望書を策定し、旅行業界に提出している。添乗中の労働時間の管理はあくまでも長時間労働に見合った賃金を支払う手段であって、待遇の改善が目的である。例え、時間管理をしたとしても、現行日当を労働時間で割った金額が最低賃金すれすれの額を基準に計算されたのでは処遇の改善にはつながらない。

今や、労働者が職場を選ぶ時代であり、本来の旅程管理業務以外の物品販売、集金業務、土産物屋の試食品携帯・提供、お弁当や飲み物の配布など等雑用をこなすためにバス走行中も着席してられないといった業務実態が併せて改善されない限り、夢破れ去っていく人は後を絶たない。

かつては「旅の演出家」として旅行参加者に感動を与えるやり甲斐のある専門職として人気のあった当業界に、今人が集まらなくなってきた。このままではシニア層が求める高品質の旅に欠かせない人材の確保が危ぶまれる。

行政当局が添乗業務を時間管理が可能な業務であると判断したあかつきには、使用者である旅行会社の責任において労働時間管理がなされなければならない、旅行会社の意志決定と理解なくして実行は不可能である。そのためにも厚生労働省労働基準局の一定の指針を一日も早く示してほしいと願っている。

(社)日本旅行業協会

会長 新町 光 示 氏

霞ヶ関官庁街路樹の新緑の若葉が美しい陽春の4月中旬に、JATA本部に新町会長をお訪ねいたしました。



三橋専務(以下三橋) 以前ジャルパックの社長としてご登場いただいてから10年近く経過しましたが、今回はJATA会長としてお話を伺わせていただきたく存じます。

私共も大変関心の深い、会長が年頭所感で述べておられた、人を大切にしない産業は発展しないというお言葉ですが、旅行業界の現状と人材育成についてまずお聞かせいただけますでしょうか。

旅行業はクリエイティブ産業に脱皮し 人材育成が急務

新町会長(以下新町) 旅行そのものは国民にとってポピュラーになってきていますが、旅行業が時代をリードするような新しいカテゴリーの第4次産業として世間に認知される一人前の産業になるためには、あまり目を向けてこなかった人材育成の仕組みをしっかりと構築する必要があると思います。

旅行産業そのものが他産業に比して必ずしも確固たる位置づけを確立出来てない要因の一つは、物を作る産業のようにロボット等により省力化できる業界と異なり人が中心の産業でありながら、それに相応しい人材育成や処遇面での整備が必ずしも為されてこなかったことにあると思います。旅行



業を目指す人は多くても、実際に就職すると現実とのギャップがあり離職率が高くなっているのが現実です。本来ならば人材によって発展していく産業であるにもかかわらず、基本的な人材育成の体制が追いついていない気がします。長い目で見た場合、人材育成の環境づくりが最も大切であると確信しています。旅行会社は特に設備投資をしないで設立可能なことから乱立気味で、結果として価格競争になってきました。この旅行業界の過当競争による価格競争が、現在のいびつな形を惹起している面が多々あると思います。

今後、旅行業が観光立国の担い手として消費者から期待される産業となるためには、今の状況に危機感を持つ必要があります。元々旅行業は、自前の商品を持たないで交通機関や宿泊の代売を行うエージェントとして成り立ってきた歴史があります。代売の業務はIT(情報技術)の発達により誰にでもできてしまうような業務になる傾向が強まり、サプライヤーと消費者が直接結びつく構造が生まれました。そのような業界では優秀な人も集まらず、集まっても興味を失い去っていき、人材が定着しない原因となっています。また、人材育成が難しいエージェント業から脱皮するためには、旅行会社が自らの商品を創ってお客様に販売することが重要であり、素材をいかに料理するかにかかっています。いわば料理人と一緒に、名料理人は同じ素材を使っても味が違うように、旅行会社にしかできないような旅行商品を提供していくことがポイントであると思います。

三橋 そのような旅行業界において、まさに人によるサービスである添乗業務についてはどのように考えていらっしゃいますか。

旅行業界の重要課題の一つ、 添乗問題の解決に向けた協議を

新町 エスコーツツアーは時間を有効に活用し、旅行商品に付加価値を生み出すことから大変重要な位置づけです。添乗員は派遣であるか否かを問わず、旅行会社を代表する顔としての存在です。添乗員の業務は旅行商品において大変重要な使命を担っているのですから、それに見合う環境整備が必要です。特に募集型企画旅行については、今やその大部分を派遣添乗員の皆様をお願いしており、業界の大事な人材です。魅力溢れる業界であり続けるには、業界全体で改善に向けて一層の努力をする必要性を感じます。

三橋 JATA内に「添乗員問題検討部会」が設置され、おかげさまで解決に向けての話し合いの場ができました。時間管理の問題の本質は、長時間労働に見合った賃金の支払いができない状況にあります。働けど働けど生活の目途が立たない派遣スタッフの悲鳴がことの発端です。派遣スタッフの処遇、労働環境が改善されないと、今後この業界に入ってくる人材がいなくなります。さらに、本来旅行会社が行うべき業務を派遣会社や添乗員に肩代わりさせるシステムができつつあり、大きな負担となっていることも事実です。そのような旅行会社には今後派遣できなくなることも十分考えられます。



ところで団塊の世代やシニアマーケットも視野に入れて、今後どのようなデスティネーションが注目を浴びると思われませんか。

旅行業界の将来を担う 優れた旅行商品の造成を

新町 旅行業界が期待するシニアマーケットがすぐに消費を旅行に向けるかという少々疑問で、日本の景気は回復しましたが、個人所得はそれほど増えていず、年金の不安などもありやや悲観的です。老後への貯蓄が優先することもあり、若い人達も含め海外旅行に行かなくなった傾向が見えます。もっと世界を貪欲に観ようという気概が日本人に欲しいですね。

今後、団塊の人達が興味を持つ行先としては、リゾートのハワイ、食べ物や歴史の中国、韓流文化の韓国などアジアもありますが、いろいろな顔を持つヨーロッパが挙げられると思います。歴史、自然、芸術、文化などが混在し、奥深く何度も行かないと判らない点があり、なかなか一人では行きにくく、行くに際しても気構えの必要な目的地です。旅行会社も団塊の人達が興味を持つようなヨーロッパ旅行を造成する必要があります。個人旅行が伸びることにより旅行産業は発展するかもしれませんが、旅行会社の介入する余地は少なくなり、経営基盤は安定しにくいと思います。創造性の溢れた優れた企画商品に旅行業界の将来がかかっています。

三橋 会長はJAL時代も含め数限りなく国内外に行っていらっしゃると思いますが、今までのご経験でご自身が感動な旅行はどのようなものでしょうか。

新町 JAL時代は殆ど出張で、目的地との往復でした。ジャルパックに移ってから旅行らしい旅行をしましたが、「旅行」という観点からは本当に初心者であると思っており、今も行く先々で感動しています。以前、ベニスからアテネまで日本郵船のクルーズに乗船しましたが感動の連続でしたし、昨年サンモリッ

ツに滞在しましたが、大変魅力的な観光地で、旅行というものはこんなに素晴らしいものかとあらためて新鮮な感動を覚えしました。天安門や故宮博物館にも感動いたします。JALのロンドン駐在時代は、週末を利用してカントリーサイドの小旅行をよくしましたが、海外に拠点を置き生活の延長線としてのドライブで、一般的な「旅行」とは異なりましたから。

三橋 最後にTCSAへのご要望なり、ご意見を伺えますでしょうか

TCSAはツアーコンダクターの 利益を代表する協会に

新町 幾つかありますが、先ずTCSAは添乗員を育成する立場であって、旅行業界とあくまで分業しているという観点で物事を考えるべきで、下請けの存在の認識は払拭すべきだと思います。さらに“添乗”という言い方も今後一考を要するのではないのでしょうか。語感から受ける誤解は大きいと思われれます。ツアーコンダクターの方が相応しいと思いますが、国内の業務がネーミングにそぐわないのなら、別の職種として考えても良いのではないのでしょうか。労働問題に関しても、TCSAとしてビジネスを超えた人権問題として捉え、旅行業界と真剣に話し合って改善に向けて進んでいく姿勢が求められます。旅行会社の無理難題に対しては、派遣会社も毅然たる態度をとらないとしわ寄せが添乗員にいつてしまうのではないのでしょうか。TCSAも添乗員を代表して言うべきことは言うというスタンスを持ち、発言する協会になっていただくことが業界の為にもなると思います。

TCSAとして良い添乗サービスを提供する機関としてだけでなく、拠って立つ基盤の弱いツアーコンダクター、一人ひとりの利益を代表する協会として頑張っていたきたい。その為には協力は惜しまないつもりです。

三橋 ありがとうございます。ツアーコンダクターへの励みになるお言葉をいただき、私も今日は大きな勇気をいただきました。



我が国の旅行業界を代表するお立場であり、現在の旅行業界のあり方に常に課題を持ち続け、ツアーコンダクターの重要性を認識し、労働環境の改善に向けて助力を惜しまない、という心強いお話が伺え、明るい希望を抱きつつ辞去いたしました。



“ ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2007 ” 推薦締め切り迫る 2006年 特に活躍されたツアーコンダクターに栄光を!!

TCSA創立20周年を記念して創設したツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー表彰制度は、昨年は初年度であったためTCSA正会員会社に所属するツアーコンダクターを対象に実施しました。2年目を迎える本年度は、TCSA賛助会員旅行会社に所属する添乗を専門職とする方々をも対象とし、広く業界全体の職業表彰制度としていきたいと考えています。

既に5月初旬に正会員会社、賛助会員旅行会社に推薦を依頼し、6月8日の締め切りをもって6月下旬以降から受賞者の選考に入ります。

本年度は、一部推薦枠の拡大、推薦の際に提出する推薦書、添付書類等の改善を行い、より多くの候補者の推薦を呼びかけることによりこの表彰制度の定着、認知度の向上を図っていきます。

今回もグランプリには国土交通大臣賞の授与を予



定しているほか、褒賞内容の充実にも取り組んでいきます。

この表彰制度は、TCSA会長表彰や各地域運輸局長表彰と異なり、前年度に顕著な功績を挙げたツアーコンダクターの栄誉を称えるもので、添乗を専門職とする人達誰にでもチャンスがあり、吉村作治委員長を初めとする選考委員会で審査を行い選任されます。

本年度の表彰式は、東京お台場のビッグサイトで開催されるJATA世界旅行博会場にて9月14日に実施の予定です。

TCSA添乗員表彰規定「特別永年勤続功労表彰」新設、 本年度5名のベテランの方々が受賞!!

従来のTCSA添乗員表彰規定に定められている、永年勤続表彰(経験15年、2,500日以上)および功績表彰に加えて、この度「特別永年勤続功労表彰」の新設が2月開催の理事会にて承認されました。

この表彰は、添乗経験年数が30年以上、通算添乗日数が6,000日以上という高いハードルとなっており、文字通り業界における特別功労者と言えます。

今年度は5名の方々が受賞し、3月22日に開催されたTCSA第21回通常総会会員懇談会において110名の永年勤続表彰受賞者と共に表彰式が実施されました。

今後もTCSAでは、永年のご苦勞に報い、その栄誉を称えるために積極的に応援してまいります。

「特別永年勤続功労表彰」を受賞された方々

- ① 樋口 進さん (日通旅行ビジネスサービス:32年・6,915日)
- ② 日和山 登さん (日通旅行ビジネスサービス:32年・6,892日)
- ③ 原 好正さん (日通旅行ビジネスサービス:32年・6,353日)
- ④ 滝澤 宏さん (日通旅行ビジネスサービス:31年・6,177日)
- ⑤ 岡田 愛さん (JTBワールドパッケージング:30年・6,144日)



向かって左から 樋口さん、TCSA山田会長、岡田さん

「離職者等職業訓練」「シルバー人材センター旅程管理研修出張講座」を実施

新たな公費受託採用制度がスタート、 新戦力として期待

厚生労働省から職業能力開発機構を経てTCSAが受託した「離職者等職業訓練」が3月末に3ヶ月の研修を終了し、受講生13名が卒業いたしました。13名のうち2名が別の職業を選択いたしました。11名は派遣添乗員の道を選択。申し出のあった会員会社の面接を経て6社に就職が内定し、11名全員が旅程管理研修修了テストを高得点で合格し、ツアーコンダクターとしての業務を開始しました。

長期間に亘る研修室の確保等の条件もあり、当面、実施箇所は東京に限られますが、TCSAでは今後も同機構や東京都が実施する職業訓練制度に応募し、会員会社の募集への一助といたします。

また、新しい旅程管理研修形態として、(社)神奈川県シルバー人材センター連合会から要請のあった国内旅程管理出張講座を2月下旬から8日間横浜市で受託実施し、25名の受講生が修了いたしました。



25名全員が申し出のあった3社の会員会社に登録した後、国内旅程管理研修修了テストに合格。添乗員として1人立ちするために各社の社内研修を受講し、GWには添乗業務を開始しました。受講生全員が60才前後のシルバー層ですが、皆就労への意欲も高く、その層の添乗員を必要とするツアーもあることから、受講料が公費負担の新しい募集形態として注目されています。

TCSAでは今後も旅程管理研修実施地域を中心に、各都道府県のシルバー人材センターに旅程管理研修講座の開催を呼びかけていく方針です。

2000日添乗員の「コッコ」奮闘記

連載 ③



日通旅行ビジネスサービス(株)
日 和 山 登 さん
(平成18年度TCSA特別永年勤続労表彰受賞者)

わたし流『良い加減』の極意

私もそろそろ団塊の世代と言われる世代に入ってきましたが、気分はまだまだ20~30代と変わっていないつもり...?

久しぶりに床屋に行きサツパリし、帰宅

をしても家族の誰も気付いてくれない。

それとなくアピールしても「あら!」「髪切ったの、あまり変わらないわね。」息子等はずっとひどい。「どこ切ったの?意味ないじゃん」である。

海外への添乗という仕事柄、家を留守にする事が多く、家の中では家内と子供2人がガッチリとスクラムを組んでいる。私はなんとなく仲間に入りたくて様子を伺っている日本猿になった気分である。夫として父親として継続的に当てる時間もなく自然にそうだったので、私もそれを良い事に、適当な「良い加減」の主人を決め込んでいるこの頃。

添乗業務という仕事は24時間勤務である。勿論、朝何時から夜何時迄という基準はあるが現実にはそうはいかない。どんな職種でも同じだろうが、小さなミスやアクシデントでも後で大きな問題に発展

しかねない。常に精神的、物理的、両面の問題が決められた時間の中で濃縮されている。大袈裟に言えば、どんな些細な事でも起爆剤になりかねない爆弾を背負って歩いている様なものである。

だからと言ったら少々言い訳めいているが、私は帰国後途端にだらしなくなるらしい。

トランクの整理は家内まかせ。サイフや家のキーは入口に置さずばなし。バックのファスナーは開けつばなし.....等々。

昔、家内が子供に「イカゲシにしない!!」と一喝。対して返した言葉が「だから良い加減にしているじゃん!」であった。

車のハンドルで言えば「遊び」だろう。添乗業務も「いい加減」ではまずいでしょうが、「良い加減」というものがあるのでは、と思う。



TCSA だより

「TCSA添乗員相談室」フリーダイヤルの活用を!

悩みは テ クサヘ



0120-78-1093

協会では「添乗員相談室」を設置して添乗員の方々からの各種相談を受け付けております。派遣先旅行会社や所属派遣元とのトラブル、添乗中の顧客対応、個人的な悩み、相談事など幅広くお聞きして、状況に応じて顧問弁護士、社労士などの助言を基に回答を行っています。受付は電話、メールの両方で行っていますが、平成18年の相談件数は413件(メール383件、電話34件、封書1件)を数えています。当然のことながら、守秘義務と個人情報の保護に努め、匿名で受け付けていますので、1人で悩むことなく積極的にご利用ください。

✉ 「TCSA添乗員相談室」メールアドレス:soudan@tcsa.or.jp

平成19年度 派遣元責任者 講習会

派遣元責任者は、労働者派遣業を営む上で派遣労働者の登録数に応じ一定の割合で選任が法的に義務づけられている資格で、5年に1度更新が必要となっています。TCSAでは平成2年から厚労省の委託を受けて講習会を実施しており、現在は協会事業の大きな柱となっています。

本年度も全国5地区で計14回実施の予定ですが、TCSA正会員受講者の受講料(9,000円)を協会で全額負担するなどの便宜を図っています。受け付け日に直ぐ締め切りになる状況が続いていますので、確認の上、TCSAウェブサイトで手続きを願います。

これからTCSA開催日程

開催日	受付開始日	開催地
6月27日	4月27日	福岡
7月24日	5月22日	東京
8月17日	6月18日	東京
9月10日	7月10日	東京
11月1日	9月3日	東京
11月12日	9月12日	東京
12月4日	10月4日	東京
H20年1月30日	11月30日	東京
H20年2月4日	12月7日	東京
H20年3月5日	1月10日	東京

正会員

退会

コーシンサービス(株) 会員番号101号)

添乗派遣業務縮小のため

フォーリストジャパン(株) 104号)

諸般の都合により

代表者変更(()内は前任者)

(株)コープサービス

代表者 中野 武弘(戸沢 政弘)

(株)JTBサポートインターナショナル

代表者 中村 弘和(佐藤 隆太郎)

(株)阪急トラベルサポート

代表者 中家 久年(中村 勝躬)

(株)オデッセイ

代表者 新幸 さとみ(野々山 桂)

(株)JTBサポートプラザ

代表者 藤本 桂三(青井 正雄)

(株)ホスピタリティー

代表者 森谷 博(森谷 哲也)

移転・FAX変更

(株)トップスタッフ中部支店

新住所 〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-18-25

丸の内KSビル11階

電話・FAX変更無し

(株)ティーシーエイ札幌支店

新FAX番号:011-221-7474

会員動向

(株)阪急トラベルサポート名古屋支店

新住所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅2-45-14

日石名駅ビル8階

電話・FAX変更無し

(株)ツーリストエキスパーツ九州営業部

新住所 〒812-0014 福岡市博多区網場町2-21

福岡MDビル5階

電話・FAX変更無し

お詫び

前号(62号)会員動向欄の住所変更において、会員会社名を誤って記載いたしました。

謹んでお詫びし、訂正させていただきます。()内は誤った記載

シモデンスタッフサービス(株) (シモデンスタッフ(株))

賛助会員

代表者変更(()内は前任者)

ANAセールス(株)

代表者 四十物 実(大野 晃二)

商号変更

学校法人トラベルジャーナル学園

(学校法人森谷学園)

移転

大塚製薬(株)

新住所 〒108-8242 東京都港区港南2-16-14

品川グランドセントラルタワー12階

ニュートラシュティエーカールズ事業部ブランドコミュニケーション部

新電話:03-6361-7304 新FAX:03-6717-1466

(((編集後記)))

日頃のTCSAの活動が良く見えない、というご批判を各地域連絡会やブログ書き込み等でいただく。

添乗員の労働環境改善のために委員会を中心に地道な活動を続けているが、具体的な成果が現れにくく情報の発信不足を反省する次第である。本年度から「TCSA事務局だより」をスタートしたが、少しでも会員会社や添乗員の方々に協会の活動を理解していただけるよう努力を心がけたい。(T・S)

社団法人 日本添乗サービス協会

〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-17 朝井ビル4階

TEL(03)3432-6032・FAX(03)3431-8698

E-mail tcsa@tcsa.or.jp

URL http://www.tcsa.or.jp/